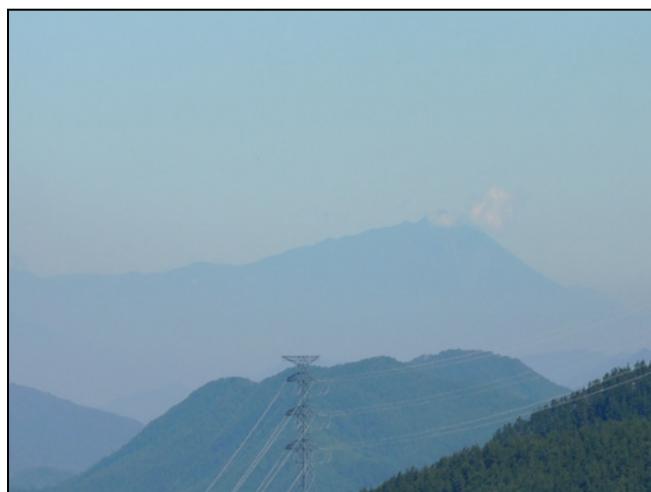


「種山ヶ原は今」④

連日の猛暑に、岩手山もうっすらと見えるだけ、それでも種山ヶ原は風が吹いてさわやかである。ロッジやキャンプ場には思い思いに過ごす子供連れが多い。朝は、焚火をしながらお茶を飲む人、こどもと散歩する人。いい風が流れています。ピンク色の可憐んなネジバナも咲き始めました。



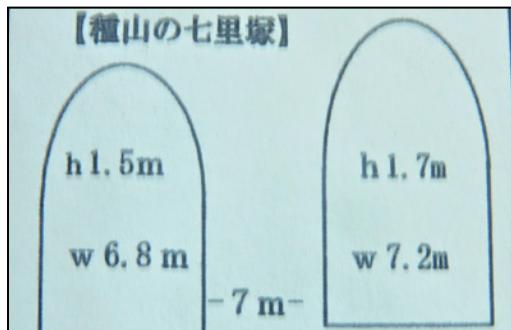
賢治の森からの物見山

今牧草刈りが盛んです。畜産農家は裕福だけど大変なんです。干し草ですから天気の良い日は、朝から夜中まで、ライトを点けて牧草の収穫です。

宮沢賢治が歩いた「旧盛街道」（水沢・不斷橋～大船渡・盛までの約 64 km）

大正 6 年宮沢賢治一行が江刺郡の地質調査で伊手から栗木鉱山に近い「種山ヶ原」を訪れている。彼自身幾度となく種山ヶ原を訪ね、多くの作品を残している。種山ヶ原から「人首町」へ行く時に通った街道が、「旧盛街道」である。

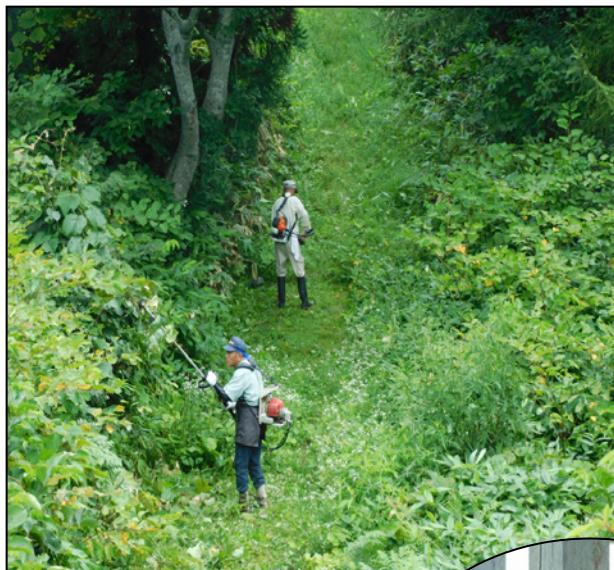
「星座の森」から数キロの所に「種山の七里塚」がある。この七里塚は下図のように対なっている貴重な交通機関遺跡である。この遺跡は、放牧地の中にあるため、牛たちの被害を受け現在は 1m 程の高さになってしまった。それ以降、管理者「江刺畜産公社」が電柵を設置し、毎年米里文化財調査委員会が草刈りをし、「種山の七里塚」を守っている。



「賢治の森への遊歩道」整備 8月 3日

3 日 9 時前 2 台の軽トラで賢治の森へ。東屋には今日も「サブちゃん」（カモシカ）が「おはよう」と顔を出した。「今日も来たのが」という顔だ。もう 2 台は遊歩道入口から草刈りを開始。小竹、佐藤、千田義、強と山崎の 5 名。

今、あざみとネジバナが咲いているので、この二つに注意しながら刈っていくが、つい刈ってしまう。「ごめん」と言いながら刈り進めた。第 2 部隊に落ち合うことができなかつたが、今日の分は終了。とにかく暑く、アブがうるさい。



東屋の住人

サブちゃん



夏の花、秋の花が競いあっています



ネジバナが咲き始めました

らせん状に花を咲かせるネジバナ。幼い頃は
ネジレバナッコと呼んでいた。蘭の一種だとか。



萩の花



カワラナデシコ



葛の花



「五輪峠」は『旧五輪街道整備完了。歩けます。』山道です。

旧五輪街道は伊達と南部をつなぐ重要な街道で、キリスト教布教のために明治元年函館から江戸に向かう途中五輪峠を越えた坂本龍馬の従兄弟澤邊琢磨、俳人河東碧梧桐、「遠野物語」の柳田國男、柳田國男に資料を提供したと言われる佐々木喜善、そして宮沢賢治。有名な人々が通った貴重な街道で、今なおその雰囲気を残している。宮沢賢治の作品の一つの原風景として保存していきたいと麓の人達を中心に街道の整備を行っている。

7月9日旧千田義一さんが旧五輪街道の草刈りを実施。太い松の倒木の情報。
24日千田義一さん、強さんと3人で処理。8月初めに草刈りを計画。



8月5日旧五輪街道の今年度2度目の草刈り。峠から千葉光紀さん、鶴田清さんが、下山口から千田義一さん、強さんの3名で草刈りを開始。熱中症警戒が出ている中の草刈りで、大変でしたが、2時間程で完了。沢が決壊していますが、通行できます。車で来られ、歩いてみたいが、帰りの上りがつらい方は下記に電話をください。時間があれば峠までお送りします。TEL090-5597-2340(山崎) 事前に





宮沢賢治は度々五輪峠を訪ねているようです。

五輪塔もさることながら五輪峠の地質蛇紋岩帯にも興味を持ったのでしょう。大正6年の地質調査の時も五輪峠を訪れ、その時の様子を同行した高橋が

「賢治が『五輪峠では、蛇紋岩脈にハンマーを打ち入れ転び散る岩片を拾いながら、ホーホー20万年もの間陽の目を見ずに居たので、皆驚いていると叫んでいた。』と言っています。（「賢治街道を歩く会」の案内板より）

峠の道には蛇紋岩の岩肌が至る所に露出しています。

蛇紋岩とは

橄欖岩が地下深部で水の作用を受けて変質された物質で、マグマが固まってできた岩石ではありません。ただし、一般的には火成岩の仲間として分類されます。岩石の表面にヘビのような文様が見られることから、蛇紋岩と命名された。

2016年5月10日には日本地質学会によって「岩手県の石」に選定された。

蛇紋岩の特徴

用途 (1) 肥料 但し適さない作物もある

(2) 温石石 昔、火やお湯で温め、布でくるみ懐炉として使われた

(3) パワーストーンとしても使われているようです。

※ 蛇紋岩が熱水変質すると滑石になる。

滑石は五輪峠の麓の大内沢でよく見つかった。子供の頃チョークの代わりに地面に絵や字を書いたものです。